



温暖地における宿根草ガーデンの制作とその展望

○上田和子¹・田淵美也子^{1,2}

(¹兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科/²兵庫県立淡路景観園芸学校)



はじめに

近年、世界の庭づくりの潮流は、華やかな一年草花壇から、野性的で自然な雰囲気宿根草ガーデンへと移行している。地球の温暖化や異常気象による植物をとりまく環境が変化の中で、自然を切望するニーズが高まり、都市や身近な場所にも野趣あふれる景色や多様な植物のある環境が求められている。維持管理やコスト面からも短期間で植え替える必要がない宿根草への見直しが始まりつつある。温暖地である淡路ではどんな宿根草が適しているのか、夏秋型のガーデンを実験的に制作し、維持する為に最低限必要な作業や手法を探り、日本の梅雨や酷暑できれいに残すことが難しいシードヘッド*を晩秋に見られる長期観賞可能、持続可能なガーデンを目指し、植物が本来持つ美しさについても探求した。

※シードヘッドとは・・・花が咲いた後に種や実をつけた姿、あるいは花がら。

宿根草ガーデン制作の目的

1.創出

●温暖地に向く多種多様な宿根草やオーナメンタルグラスを用い、都市のような環境でガーデンを制作する事で、より自然で美しい景観と人々の癒しの空間、さらに生物の多様性を創出すること。

2.管理と普及

●最低限の手間で持続可能なガーデンが可能であるか実験検証を試み、管理手法を明確にすることによって、広く一般に応用できるよう還元すること。

3.植物美の価値観

●より自然なガーデンを追求し、ありのままの植物の終盤の姿を残し、花後の枯れ姿やシードヘッドに美しさを見出すこと。多くの方に植物の変化を通じ、季節の移ろいや自然の美しさを感じてもらうこと。

方法

1.制作

●兵庫県立淡路園芸学校『風の詩』屋上庭園を再生利用し、温暖地にあった宿根草やグラス類を選択。夏秋を主とする植栽計画を立て、宿根草ガーデンを制作する。

2.発信

●制作したガーデンに用いた宿根草やグラス類の魅力、管理方法などをまとめ、パンフレットを作成。来訪者の方に配布し、実際に屋上ガーデンを見ていただく。

3.調査

●ガーデンの集大成である晩秋のガーデンを多くの方々に見てもらい、何を感じ、どのように心が動いたか、アンケート調査を実施する。

制作場所と制作工程

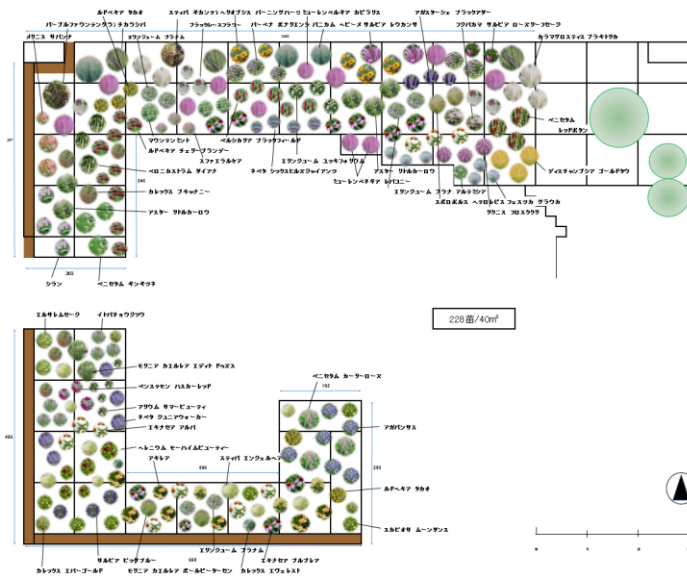
兵庫県立淡路園芸学校『風の詩』屋上庭園を再生利用



- ①現場調査。除草や不要物の撤去など整備。 ②枕木を縁周りに設置。約40㎡ ③植え付け 2020.4.16 1㎡角の升を切って植栽。

植栽図面

植栽密度
1㎡5~6株
228株/40㎡



宿根草 36種
グラス類 26種
合計 62種

※枯死した所には補植や、バランスを見て移植を行っている。

宿根草の選択とその考え方

■植栽植物の選択について

→原産地「ケッペンの気候区分」により気候を確認。

植物の生態環境に合うものを選択。

①北アメリカや中南米、南アフリカの東海岸、東アジア

モンスーンの影響を受ける日本と同じ温暖湿潤気候の宿根草

②地中海沿岸部、ヨーロッパ

夏に乾燥する地中海性気候の宿根草

(但し、高温多湿に弱い植物はリスクが高い)

→開花期 ①夏・秋に開花する宿根草は一般的に暑さに強い

→夏秋型を選択

②冬・春に開花する宿根草は一般的に暑さに弱い

→品種 園芸的に品種改良され、品種により夏の暑さに強いもの

→耐寒性 耐寒性があっても耐寒性がなければ持続しない。

HARDINESS ZONE MAPSを参考にする。

対象地のゾーンナンバーは9b

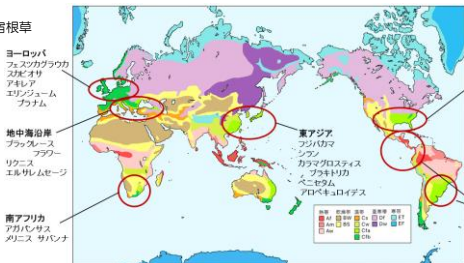
→観賞性 ①比較的开花期が長い、または2度咲など。葉の観賞価値がある。

②シードヘッドや花後の枯れ姿が美しいもの

→繁殖力 こぼれ種などで繁殖力の強いものは除外する

【ケッペンの気候区分】

使用する宿根草はほとんど温帯地域を原産地としている。



出版 帝国書院編集部編(1984):『新詳高等学校社会地図一初訂版一』帝国書院。

【宿根草+グラス類】ガーデンの魅力と利点

1.季節の変化

初夏

夏

秋



季節によって
開花して花たち・・・
色濃く深い色へ

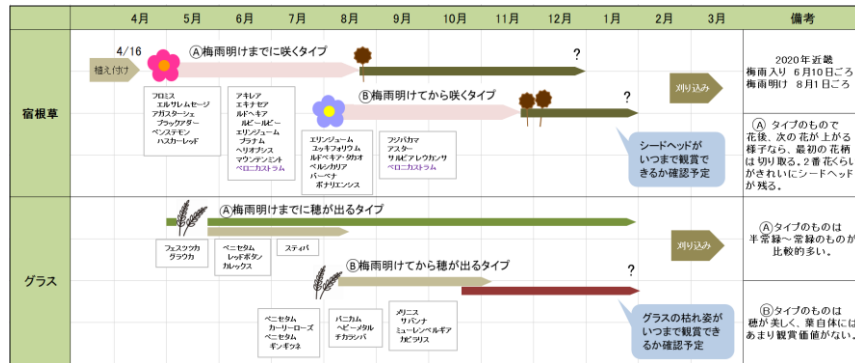


グラスの穂も
また色の変化が
美しく・・・



2.長期観賞

【宿根草+グラス類】ガーデンの観賞期間



①=④タイプ開花 ⑤=⑥タイプ開花 =シードヘッド グラスの穂

シードヘッドや枯れ姿も美しいグラスを活用すれば、ガーデンの観賞期間はおよそ、8カ月にも及ぶ。

さらに春咲きの球根を植栽する事で、早春も楽しめるガーデンとなる。(秋植え球根の植栽を計画中)

■シードヘッドの魅力

花が終わった後の個性的なシードヘッドは時間が経過しても、凛と 固く立っている。揺れるグラスとの対比も魅力的である。
写真は、エルサレムセージ *Phlomis fruticosa*



3.ローメンテナンス

- ①一年草ガーデンは春と秋の年2回、植え替えが必要であるが、【宿根草+グラス類】のガーデンは短期間での植え替えの必要はない。(但し、数年毎の株分け、移植や枯れたものを補植するなど、ベースに対して足し算引き算のバランスをとる必要がある。)
- ②グラス類は花から摘み、切り戻し、支柱、施肥などが不要であり、ローメンテナンス・プランツと言える。今回、制作したガーデンは全体の40%、グラス類を植栽しており、管理負担が軽減されたと実感した。

マルチングでさらにローメンテナンス

制作したガーデンは植え付け直後、全体にバーク堆肥を3cm~5cmの厚みでマルチングした。防草効果があり、土壌の乾燥を防ぎ、暑さ、寒さなど地温の影響を緩和してくれる。防草効果の検証では、1㎡当たりのマルチありとなして雑草の本数と重さを計測。その結果、バーク堆肥でのマルチングはしていないところより、雑草を1/10に抑制した。

4.経済性

宿根草と一年草の年間苗代 比較表(40㎡当たり)

	平均的植栽密度 (株/1㎡)	植栽ピッチ (cm)	平均価格 (円)	面積 (㎡)	必要数 (株)	価格(円)	植え替え数 (春・秋)	植え替え費 (円)	年間価格 (円)
一年草	16/㎡	25	140	40	640	89,600	2	179,200	179,200
宿根草(60%) +グラス(40%)	5~6/㎡	40~45	540	24	132	71,280	0	0	92,880
	2~3/㎡	60~70	540	16	40	21,600	0	0	

一年草だけの植栽は一回の植え付けの場合、宿根草(60%)+グラス(40%)より安価だが、年間を通して考えると、一年草は植え替えが年に2回以上必要となり、宿根草(60%)+グラス(40%)の方が経費を抑えられる。グラス類は植栽密度が低く株幅が大きく成長するため、苗数が少なくすみ、2年目以降、補植分の苗を2割上乗せしても、宿根草(60%)+グラス(40%)のパターンは安く、コスト削減に期待ができる。

5.生物の多様性

4/16に植え付けをしてから、現在まで制作したガーデンで確認できた昆虫類は49種。同じ種類のものを一面に植えるやり方ではなく、多種の宿根草を植栽した事で多様な生き物たちが生息できる環境を整えたと言える。



フジバカマにアサギマダラがやってきた!!

まとめ

【宿根草+グラス類】のガーデンは短期間で植え替えの必要がなく、経済的にも優しく、特にグラス類は手間があまりかからない点において、維持管理に課題を抱える公園や公共空間にも有用の可能性が期待できる。暑さに弱い宿根草が多い中で、温暖地でどのような宿根草を選べばいいのか、植物の選択は重要であると考えられる。また、シードヘッドや枯れ姿が美しいグラスの活用を有効とすることで、シーズン後半のガーデンの主役とし、長期観賞可能なガーデンとなる。華やかではない茶色く硬いシードヘッドを植物の本来持つ美しさとしてとらえ、美的価値観を見出せるかどうかは、これからアンケート調査を実施し、解明していく予定である。制作したガーデンについてのパンフレットは作成したが、今後【宿根草+グラス類】のガーデンの魅力や維持管理の手法や作業についてもさらにまとめていく予定である。